令和5年度　高志高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
自ら学ぶ生徒を育てる	生徒自らが問いや課題を設定しながら学びを進める過程を通し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	・家庭学習に対する生徒の意識は目標指標を上回っており、昨年度に続いて取り組みの状態が上昇している。一方で、保護者と生徒の間の意識にやや乖離が広がった。	・家庭学習時間調査や面談等を充実させ、生徒の学習習慣の一層の定着を図る。また課題の内容・与え方について生徒の意欲の喚起を意識する。
	探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む。	・90％以上の生徒・教員が、深く考える授業を実施していると意識している。教員では95％を超えている。	・現在の授業改善の取組を継続していくとともに、学習指導要領や新傾向の大学入試等を念頭に置き、主体的な学びに関する校内研修会を通して、指導法の共有や検討等、更なる授業研究を継続していく。
		・教育課程や中高一貫教育に関わる学校の取り組みについて、85％以上の保護者が満足している。 ・教員の探究創造科への対応は、90％以上で検討を進めている。	・今後も、本校の中高一貫教育についての検討を中高の教員で更に進めていく。 ・今後も、教科会や校内研修会で、SSHの取り組みの経験を取り入れながら、探究創造科にふさわしい授業や学習指導計画について、検討を継続していく。
	・SSH・SGHネットワークの取組（課題研究・各種研修・講演会・コンテスト等参加等）により、生徒の探究力や課題解決能力を高める。	・取組により自らの探究力や課題解決能力が高まったと感じている生徒、および生徒の探究力や課題解決能力を高められたと感じている教員は、いずれも90％を超えており、目標を達成した。また、取組が有意義だと思うと答えている保護者も90％を超え、目標を達成した。全般的に取組は十分できていると考えられる。	・教職員に対する探究学習に関する教員研修会、チェックリストや評価ルーブリックを活用した課題研究指導の徹底、各教科における探究的学習活動等のさらなる拡充を図る。 ・生徒に対して、探究活動の意義を機会あるごとに伝え、活動に取り組む意欲・態度を更に高める。また、探究に関する各種コンテストやイベント、学会等へ積極的に参加するよう、引き続き生徒に呼びかける。 ・課題研究や各種研修等の成果について保護者がより理解できるよう、ウェブサイト等による広報を拡充する。
自ら考え責任を持って行動する生徒を育てる	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場を提供する。	・「リーダーとしての人材を育成することが十分にできた・おおむねできた」と回答した教職員の割合が、昨年度より若干低下し、また、目標指数の90％にわずかに達しなかった。 ・生徒全員が参加するホームルーム活動・学校祭には約95％の生徒が、生徒の参加が任意の生徒会活動・部活動では約85％の生徒が「積極的に取り組んでいる」と回答している。また、90％以上の保護者が、これらの活動に「子どもが積極的に取り組んでいる」と回答しており、生徒と保護者の意識がほぼ一致した結果となった。	・「生徒に任せる＝生徒主体」という考えではなく、生徒の主体的な活動を支援する「伴走者」として、教職員が生徒と関わる機会を増やす。 学校祭等の学校行事では、主となる教職員だけでなく関係している全教職員に対して、実行委員会・リーダー会議等への参加を促す。部活動においては、顧問・副顧問という立場を改め、顧問2人体制で指導にあたる。 ・ホームルーム活動・生徒会活動・学校祭行事等では、生徒が主体となった話し合い等を積極的に行わせる（例：ホームルーム、生徒代議員会、生徒会執行部）。また、それらの活動の中で生徒が提案した事柄に対しては、生徒と教職員間の意見交換等を十分に行った上で、生徒の提案が実現できるよう取り組ませ、生徒の主体的に取り組む姿勢、リーダーとしての資質を育成する。
生徒の夢・希望の実現を支援する	生徒自身が興味・関心を把握し、掘り下げることで、進路目標を明らかにし、進路目標実現に向けて努力を続けるための支援を行う。	・生徒一人ひとりに適切な進路目標を持たせるために生徒理解に努めることのできた教職員は高割合を維持している。一方で、生徒一人ひとりに、より高い進路目標を持たせることができたと回答した教職員の割合（78.4％）は目標値を下回った。また、一人ひとりがより高い進路目標を持ち、その実現に向けて学習に取り組む、と回答している生徒は微増ながら75.7％（昨年74.8％）と目標値を下回った。	・大学の先生を招聘し、研究者から直接大学の紹介や大学での研究について話を聞く機会をもつことで、生徒自身の進路に関する意識を高める。 ・大学が実施する公開講座やオープンキャンパスへの参加が可能となったこともあり、生徒が進路についての情報を得る機会が少しずつ増えてきている。今後もこれらに積極的に参加するよう生徒に働きかける。 ・GoogleClassroomを活用した情報提供や、生徒がどこを見れば情報を得られるかの情宣も行う。
		・進路選択に関する行事等が参考になったと回答した3年生は89.6％と目標値を僅かに下回ったが、1・2年生では約94％と目標値を回復した。	・各学年が行っている進路学習を、高校3年間のキャリア教育全体計画の中に位置づけ、3年間を見通した体系的な進路支援に努める。
	・各教科担当者が、大学入試問題、大学入試改革等の研究と分析を通して、生徒一人ひとりの進路目標に合わせ、目標実現に必要な学力向上のための支援を行う。	・5教科のほとんどの教員が共通テストの問題分析を行っている。 ・5教科の全教員が模試の見直しを行っている。 ・難関大および地元大の個別試験分析を行った教員の割合が82.6％と目標値を下回った。 ・模試実施後の見直しを行っている生徒の割合は85.9％と多くの生徒が見直しを行っている。	・今後も共通テストの問題分析を全ての教員が引き続き行っていく。 ・個別試験の分析をさらに進め、普段の授業、考査、課外での指導に反映させる。 ・予備校等が開催する入試問題検討会等へより多くの教員が参加する。 ・模擬試験の見直しを更に強くはたらきかけ、模擬試験受験の効果を最大化できるよう努める。

豊かな情操の涵養	・朝読書週間、図書館講座、ビブリオバトル等の行事や掲示物、広報紙等の発行を通して読書意欲を喚起し、図書館利用および読書量の増加を図る。	・教職員が読書の意義や楽しさについて伝える項目において56.8%で目標の60%を下回った。教職員から読書の意義や楽しさについて伝える時間をとりにくい状況にある。 ・子どもの読書習慣に関する保護者の回答は、「よく読書をしている」・「時々読書をしている」の割合が45.6%と、目標の50%を下回った。 ・年間貸出数は2329冊で、目標2600冊を下回った。昨年度と比較すると、特に4・7・8・12月に貸し出し数が大きく減少した。 ・図書の広報活動に対する生徒の理解は45.6%で、目標の50%を下回ったが、昨年度より改善がみられた。 ・図書館に3回以上来館した生徒は56.9%で、目標の50%を上回り、目標を達成した。	・今年度は4月の1年生対象図書館オリエンテーションの時間を十分確保できず、7月・12月の朝読書も学校全体で実施することができなかった。朝読書や図書館オリエンテーションの効果的な実施方法について検討するとともに、LH時の図書館利用を促していく。 ・図書委員会が作成している掲示物が魅力あるものとなるよう、新しい企画を検討するなど工夫していく。 ・「図書館だより」を配付する際に各クラスの図書委員が本や企画の紹介などを行うことで、生徒の読書意欲や、図書館利用の増加につなげる。また図書館の利用状況や取り組みなどについて、情報発信を増やしていく。 ・生徒用タブレット端末等から、蔵書検索ができるwebシステムを導入した。図書館を更に利用しやすい環境をつくり、本の貸し出し数を増やす。
安心して学べる環境	・相談環境を整備し、カウンセリング等をいつでも受けることができるようにする	・教職員による生徒への健康管理に対する必要な働きかけは95.5%で目標を達成した。 ・生徒が、健康な生活に必要な行動がとれるように取り組んだ割合は89.5%で目標を達成できなかった。 ・保護者の、97%が病気やけがへの必要な対応が行き届いていると評価し、目標を達成した。	・職員会議等の機会を捉えて、職員全体に対し共通理解を図り、全教員が生徒への指導・支援を行う。 ・「心の健康」に関するポスターを掲示したり、保健委員による消毒液や石鹸等の設置(補充)、放送連絡等を行い、健康面と併せて意識が高まる啓発活動を行う。 ・生徒が主体的に活動できるよう働きかけ、保健委員会や美化委員会などに働きかける。
		・教職員による悩みを持つ生徒への対応について、学校全体で取り組んだ割合が94%で、目標を達成した。 ・生徒が、悩みを相談できる人がいる割合は93.3%で、目標を達成した。 ・保護者の、92%が悩みを抱えている生徒への取組みについて評価し、目標を達成した。	・職員会議等の機会を捉えて、職員全体に対し共通理解を図り、気がかりな生徒への声かけや対応を引き続き行う。 ・学校全体で支援していく体制を整えるためにスクールカウンセラーや外部機関との連携を強化するなど、相談活動をより活性化する。
	・清掃活動等を通して、校内美化のために自ら考え主体的に行動ができる	・清掃指導を行った教員は98.5%で、目標を達成した。 ・校内美化活動に取り組んだ生徒は90.5%で、目標を達成した。 ・保護者は、93.8%が校舎内外の環境美化が「よく」または「ほぼ」行き届いていると評価し、目標を達成した。	・清掃活動を通して、生徒とともに清潔で快適に過ごせる環を境整備すると同時に、自主的な態度や姿勢が向上していくような働きかけや指導を行う。 ・美化・保健委員による掲示物作成や放送連絡(呼びかけ)等を行い、環境美化・衛生面での意識を高めたり、ゴミの分別やゴミの持ち帰り習慣が定着していくように啓発を行う。
	・保護者と学校との連携を充実させ、生徒が安心・安全な学校生活を送れる環境づくりをすすめる。	・90%以上の生徒が防災意識の大切さを理解していると答えており、防災に対する取り組みは十分できていると考えられる。	・次年度以降も、活動内容の見直しや新たな防災訓練の方法を検討する。
広報	学校説明会等を通して、保護者・小中学生・地域へ積極的に本校の情報を発信する。	・学校説明会の内容に満足している参加者(保護者)の割合は92.3%で、目標の90%を上回った。	・今後も、オープンスクールや学校説明会がさらに充実したものとなるよう検討し、積極的な情報発信を行っていく。 ・学校ホームページでの情報発信も継続していく。
ICT活用の促進	授業や校務において、ICTを積極的に活用する。	・教職員、生徒とも90%を超え、ICTの積極的な活用状況がみえる。	・ICTの積極的な活用のための環境整備や、活用方法について発信を行っていく。
働き方改革	a 定時退庁日の完全履行 b 長期休業日の「学校閉庁日」を増加 c 「早出・遅出勤務」の導入 d 職員会議の時間短縮 e 年休の取得推進 f 業務改善リーダーの提案に基づいたアクション等を積極的に図る。	・働き方改革の取組みの必要性については、ほとんどの保護者に理解されており、教職員の意識も90%強の状況である。	・今後も、保護者の理解を得ながら、業務の精選や効率化を進め、生徒と向き合う時間の確保や、教職員の心身の健康維持に努めていく。
総合	・国際社会および地域社会に貢献する知徳体の調和のとれた人材を育成する。	・およそ95%の生徒が充実した学校生活を送っていると回答している一方で、能動的に学校や社会に関わろうとする意識は昨年度に比べ上昇したものの80%には達していない。	・学校生活の中で、より多くの生徒がリーダーとして活躍する場面の設定や、友人との意見交換や教職員からの助言等をとおして、知徳体の調和のとれた人材を育成に努める。